

安原 透

活動の期間	調査研究、研修、 要望・陳情の場所	活動の種類	報告書のページ
令和6年7月2日から 令和6年7月4日まで	岡山県岡山市 沖縄県沖縄市 広島県福山市	調査研究	P 2
令和6年10月9日から 令和6年10月10日まで	岩手県盛岡市	研修	P 5

令和6年7月5日

野々市市議会議長 様

(報告者)

会派名〔又は〕
代表者〔議員名〕 安原 透



政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	令6年7月2日から 令和6年7月4日まで
視察、研修、要望 陳情の場所	岡山市役所 岡山市北区大供 1-1-1 沖縄アリーナ 那覇市山内 1-16-1 福山市役所 福山市東桜町 3-5 タカオ株式会社 福山市御幸町中津原 1787-1
参加者氏名	安原 透
目 的 (調査・視察事項)	1. 岡山市 (台湾新竹市との友好交流協定に至った経緯及び交流事例について) 2. 沖縄アリーナ (施設の特徴及びアリーナ建設までの経過、建設後の波及効果と収支について) 3. 福山市 (ブランディングの考え方・協議会の設立経緯及び委員構成・ブランド認定品のフォローアップ体制について) 4. タカオ株式会社 (これまでの公園整備とこれからの公園整備について、全国の事例について)
調査・視察概要	1 岡山市役所では、新竹市との友好交流について (1) 経緯については、平成12年に日台友好都市議員連盟を結成し、交流がスタート、数回にわたり議会の相互訪問や子ども海外派遣事業を通して平成15年4月21日に友好交流協定を締結。 (2) 交流事例は、議員連盟が主導して、民間団体との交流が始まり、映画祭をきっかけに商工会議所も交流を始める。職員の交流、職員の相互派遣、また、剣道交流は新竹市の剣道協会との交流がきっかけで、現在も続いている。

2 沖縄県那覇市の沖縄アリーナを現地視察

(1) 建設については、市長の公約の下プロジェクト推進室を発足しアリーナ建設計画に着手。「する」施設ではなく「魅せる」施設をコンセプトに、令和3年に竣工となり現在に至った。

(2) 収支・稼働率については、初年度から継続して黒字を達成しており指定管理料についても、指定管理者と協議の上で令和4年度は年度途中で減額、令和5年度については、指定管理料は支払っていない、また、アリーナの令和3年3月28日からの供用開始後の稼働率として、令和3年度が27%、令和4年度が45%、令和5年度が61%、となっている。

(3) イベント開催の内訳として、スポーツが50%、コンサート13%、MICE18%、その他19%、となっており、本アリーナは、「スポーツを中心とした多目的施設」であるため、想定通りであったが、その際は、Bリーグのバスケットボールチームの本拠地として十分に使用可能であるばかりでなく、市の行事（成人式等）や各種イベントでも使用しやすいように、床はコンクリートになっておりその用途に併せた造りで、収容人員一万人のコンサートホールとして運用もできる。

(4) 特徴として、トイレ事情に考慮されており、各エリアごと、各階ごとに、空きトイレの状況が一目でわかるようになっており、個室の空きも一目でわかるような工夫がされている。また、幼児が退屈しないようなデジタルゲームを用いたプレイルームが設置され、子守をする人も中のイベントを聴取できる工夫もされていた。

また、当初は管理団体を通して補助金を支払っていたが、本年度は、運用収益で十分に成り立っているため市の支出は無い。

3 福山市役所では、「福山市都市ブランド戦略」について

(1) 都市型ブランド戦略で目指すものとして、都市そのものの魅力を高め、地域への誇りと愛着を深める事により、交流人口や定住人口の増加、地域産業の活性化に結び付ける。

(2) 都市に対する誇りと愛着が深まる。⇒都市の活性化を担う人材が集まる。⇒都市の産品が広く流通する。⇒都市のファンが増える。⇒都市への観光客が増加する。

(3) ロゴマークでは「コウモリが描く、ばらのまち福山」が福山市都市ブランドのロゴマークとして、認知されている、コウモリは、福山城に多く生息していたため大正時代に市章として制定され、バラは、戦後に市民により植えられたのが始まりで、平成5年に市の花として制定されている。

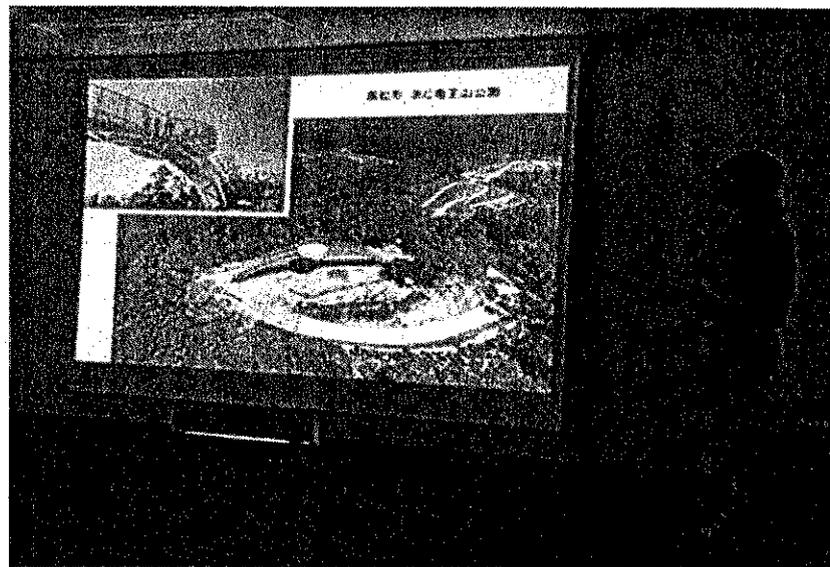
(4) 産・学・民と行政が一体となって好循環を生み出すように、①ひとづくり（人材育成）②ものづくり（地域資源開発）③まちづくり（市民活動の充実や生活基盤整備）④ブランド認定⑤発信の5つの戦略を展開している。

(5) 福山ブランドの選定審査は、行政側は一切関係しておらず、県外の専門の審査委員長の人選により、選ばれ認定された後は、3年間の認定期間が過ぎ、ブラッシュアップしないと、再認定されない、という厳しい対応がなされている。

4 タカオ株式会社では、公園やテーマパークで使用されている遊具を設計・製造から設置に至る全ての工程を一社で実施している唯一の会社である。

野々市市もつばきの郷公園に屋外遊具を設置しており、市民から高い評価を得ているところである。

タカオ株式会社は、遊具製造においては、全国のトップクラスでその評価も高い会社であり、今後の中央公園整備事業において、有効かつ参考になる事と思う。



令和6年10月16日

野々市市議会議長 北村大助 様

(報告者)

会派名〔又は〕
代表者〔議員名〕 安原 透



政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	令和6年10月9日から 令和6年10月10日まで
研修場所	トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館） 岩手県盛岡市内丸13-1
参加者氏名	安原 透
目 的 (調査・視察事項)	全国市議会議長会研究フォーラムに参加して、地方議会の課題と主権者教育についてのパネルディスカッションを通じて様々な観点から考える事を目的とする。
調査・視察概要	<p>10月9日（水） 14:20～16:30 パネルディスカッション 「地方議会の課題と主権者教育」</p> <p>コーディネーター 井柳 美紀 静岡大学人文社会科学部法学科教授</p> <p>パネリスト 土山 希美枝 法政大学法学部教授 越智 大貴 一般社団法人WONDEREDUCATION代表理事 渡辺 嘉久 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局 遠藤 政幸 盛岡市議会議長</p> <p>10月10日（木） 9:00～11:00 「主権者教育の取組報告」</p> <p>コーディネーター 河村 和徳 東北大学大学院情報科学研究科准教授</p>

事例報告者

白鳥 敏明 伊那市議会前議長
諸岡 覚 四日市市議会議員（第 83 代議長）
服部 香代 山鹿市議会議員

研修内容

令和 6 年 10 月 9 日（水）

コーディネーターの井柳さんより、議長会による主権者教育の推進に関する決議について説明（令和 5 年 1 月 21 日）。

土山さんからは、「誰がための主権者教育」か、と題して、市民と議会・議会は主権者教育の主体か、について発表

越智さんからは、若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性について発表

渡辺さんからは、人口減少社会の未来、学校の未来を考える、について発表

遠藤さんからは、盛岡市議会の取組みとして、高校生議会を平成 29 年から実施、次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めることについて発表

令和 6 年 10 月 10 日（木）

コーディネーターの河村さんより、「主権者教育の取組報告」地方議会と主権者教育について、理想と現実・選挙権年齢の 18 歳引き下げの論点・選挙と選挙後の連続性を理解させる必要・現在の主権者教育で感じる限界・政治に参加する方法・アプローチを考える・議員と会うだけでも意味がある、と紹介。

白鳥さんからは、地元の伊那市で実施している、高校生の議会傍聴と意見交換会の取組みについて、事例を交えて報告

特に高校生からの意見・提案・請願の提出・常任委員会として現地を確認し執行部への改善要望等、積極的に実施事例の報告

諸岡さんからは、ワイ・ワイ GIKAI「若者と四日市」を開催する公約に基づき、令和 4 年から高校生や大学生を対象に実施し、その状況を、市議会だより #こども号として発行している事例の紹介

服部さんからは、シチズンシップ（市民性・市民権・公民権）教室を小学生（6 年生）から実施し、市議会や議員の仕事について理解する事や選挙の意義・投票の大切さについて勉強会を実施し、市議会として取り組んだ成果について、発表

今回の先進地の発表を踏まえて、当野々市市議会としても、今後の議会報告会や高校生議会の開催など、市民に更に議会をもっと知ってもらえる様な取組の参考にしていきたい。